

お 名 前	性 別	終戦時の年齢	現 住 所
太田 美智子 (旧姓 広瀬)	女 性	1 6 歳	新城市大野 (日 吉)

「爆弾に直撃された防空壕」

会計部利材工場

昭和19年4月、私たち4年生は豊川海軍工場へ学徒動員されました。寮に入った子が会計部、通いの子が総務部に配属されました。会計部は事務をする所かなと思っていましたが、工員さんたちの油污れになった服を洗濯して、それを繕ったり手袋の先の破れたのを付け替えたりする仕事でした。



昭18 同級生と 写真:太田さん提供

この利材工場には、学徒寮に入った生徒のうちの名字が「な～む」の人で、事務とはあまりにかけ離れた仕事でした。配属されたのは10名ぐらいでしたが、戸惑いはみんな同じでした。そこで、手紙を全員で書き、不満を係官の阿部少尉に訴えました。しかし受け入れてもらえず、空襲の日まで手袋の繕い等に明け暮れました。

8月7日の空襲の日のことです。利材工場の前には大きくて頑丈なコの字型の防空壕があり、空襲の時はそこへ逃げこみました。コの字の一番奥が女子工員、中央の部分に私たちが入っていましたが、空襲が始まるにつれてどこかの学徒が入ってきました。出口の方に男性が逃げ込んで入ってきたので、大きな壕もギュウギュウになりました。

第一波、第二波と次々に轟音をひびかせて爆弾を落としていきました。そのたびに「それ来たぞ！」と言って、耳に手を当て、震えながら伏せました。第何波目かの襲来、耳をつんざくような爆発音と同時に壕がくずれ、太陽の光が入りましたが、息もできぬぐらいの砂ぼこり、足は膝下が砂に埋まり、足を抜こうと思ってもなかなか抜けず、靴も荷物も土の中へ置いたまま、やっとの思いで裸足で逃げ出しました。地上へ出てみると、利材工場もまわりの建物も何もなくなって、爆弾の大きな穴が何カ所もありました。私はクギを何度も踏んでしまって、足は痛くても、とにかく必死に牛久保方面の畑の方へ逃げました。

壕の一部に爆弾が直撃し、多くの犠牲者が出たことを後で知りました。奥の方にいた女子工員の方が直撃を受けたり生き埋めになったりして、大勢亡くなりました。同じ防空壕にいたはずの新城高女の同級生5、6人とは、誰とも会うことができませんでした。みんなバラバラにあちこちへ避難したようでした。同じ防空壕にいても、爆弾の直撃で何も見えない中、みんな逃げるのに必死でまわりの

人を心配する余裕はなく、どうなったのかさえよく分からないような状態だったのです。

避難している時、民家の方が出てこられ、「家の主人も工 廠こうしように行ってます。どうかしら？」と見ておられましたが、私の姿すがたを見て下駄げ たをはかせてくれました。うれしかったです。このことは今も忘れません。どこへ行く当てもなく畑中の小道をうろうろしていた時、中野千鶴子ちづこさんが顔面蒼白そうはくで、トボトボ歩いてくるのに会いました。「チーちゃん」と呼んでみましたが返事はなく、付いていた人が背中せなかを指さしました。見たら大きな穴があき、赤い血が海のように見えました。「アー！！」と声もなく、ぼう然として見送るばかりでした。あの体でよく歩いてきたな、必死に逃げて来たんだな、と思いながら見送りました。翌日に亡くなったそうです。

拡声器かくせいきで学徒は寮の方へ集まるようにとの放送が耳に入りましたので、声を頼りに寮へたどり着きました。生死の確認かくにんをしていたようです。そこで耳にしたのは、電気工場の学徒で助かったのは足を怪我けがした大橋春子さんだけで、みんな死んだという報が入ってきました。そこで、従姉妹の橋本節子かいさんさんも亡くなったとの報を聞きました。解散して電車に乗り、東新町の駅に降りましたら、節ちゃんのお父さんが駅で心配そうに待っていて、「美智子は帰ってきたな。うちの節子はどうかしら？」と聞かれましたが、死んだとはどうしても言えませんでした。東新町から自転車わ や ひよしで我が家べんてんぼし（日吉）へ向かっていたら、弁天橋で父親に会い、「せっちゃんが死んだよ。」と告げました。父親は、うそだと言って信じてくれませんでした。家に帰ってしばらくしたら、せっちゃんのお父さんから電話があり、「節子が死んだので連れに行くから、リヤカーを自転車に付けて来てくれとのことでした。その後、工 廠まで行きましたが、連れ帰ることは許可きよかされませんでした。

その後、千両の山へ大きな穴を掘って、その中へみんな埋められたそうです。

終戦せんこうになってから専攻科か もどに戻りました。勉強は大切だとしみじみ思い、一生懸命いっしょうけんめいがんばりました。動員学徒としてよかったと思えることはあまりありませんでしたが、利材工場きざいこうでみんなの嫌う仕事をしてきたことは、私の人生にとっては耐える力ちからを与えてくれたような気がします。

戦争ぜつたいは絶対やっつけない。戦争ひげきは悲劇を生み出すだけです。



昭16年1年松組クラス写真 写真:太田さん提供